



請願第2-2号

JR水戸線ワンマン化に伴う安全対策の実施に関する要望決議等の採択を求める請願書

2020年11月20日

笠間市議会議長 飯田 正憲 様

請願者

国鉄労働組合水戸地方本部

執行委員長



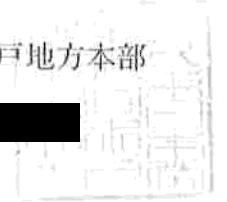
動力車労働組合

執行委員長



JR 東日本労働組合水戸地方本部

執行委員長



鹿島臨海鉄道労働組合

執行委員長



紹介議員

石本 俊雄

安見 貴志

小藪 江一三

石田 守夫

【 請 願 趣 旨 】

来年の3月からの予定で、常磐線に乗り入れている列車（水戸～勝田）も含む水戸線的全列車がワンマン運転化されることになりました。列車側カメラと運転席内に備え付けられたモニターを利用し、車内での整理券の発行や運賃収受は行わない「都市型ワンマン」と言われるものです。また、ほとんどの駅が直線ホームであり、曲線にある駅でも内方カーブであるため視認性は確保でき、安全に問題はないと言われていました。

しかし16駅あるうち7駅が無人化されており、JR社員が配置されている駅は友部・下館・小山の3駅だけです。これまで車掌による監視や手伝いを通して車いすなどには対応してきましたが、ワンマンになれば、無人駅での車いすでの利用が困難になります。既に会社は障がい者団体に対し、「事前に連絡をすれば社員を配置するが、都合がつかない場合は予定通りとならない」と回答しています。無人駅の場合本来は車掌の業務ではありませんが、近くに改札口があれば自然と見ている状況で、何か異常があれば輸送指令に連絡し警察要請なども現在は行っています。車掌がいなくなれば無人駅の治安・秩序が確認できなくなってしまいます。ワンマン化に際しては、車両設備の改良だけでは利用者の安全は守れません。

会社は「自治体等沿線への説明は行っており、ワンマン運転の実施に関しては理解を得られている」と言いますが、利用者の安全を守るために以下の事項について、改めて東日本旅客鉄道株式会社に要請して頂きたく、地方自治法第124条の規定により請願書を提出いたします。

【 請 願 事 項 】

JR水戸線のワンマン化に際し、利用者の安全を確保するには「車両設備の改良」だけでなく、「駅などの設備改善強化」も必要です。笠間市議会として標記の請願を採択して頂き、下記について笠間市から東日本旅客鉄道株式会社に要請するよう市長へ要望書を提出もしくは要望決議して頂きますよう請願いたします。

- 1、水戸線のワンマン化に当たり、健常者から障がい者まで全ての人が安全に利用できる対策を講じること。
- 2、安全対策が不十分な場合は、とくに朝夕の通勤通学の時間帯と深夜・早朝のワンマン化については、安全対策の状況に応じて段階的に実施すること。

以上